

2015年 アジアを知ろう：バングラデシュ研修の概要
 ※説明会（6/4）後に追記した部分は青文字で表示（追記日6月8日）。

1. 研修期間：2015年9月7日（月）～9月15日（火）（9日間）
2. 研修先：Gono Unnayan Prochesta（GUP；現地のNGO、ダッカおよびMadaripur地区にあるRajoir村、Khalia村）
3. 宿泊先：ダッカではホテル、村ではGUPの施設 2人1部屋
4. 対象：奈良女子大学正規在学学生（学部生、院生を含む）
5. 研修内容

現地の村を歩き、人々と話し、その文化や生活を知る。アジアの女性を取り巻く状況を知り、ジェンダー平等に向けての解決策を考える。また、バングラデシュの歴史とNGOの活動内容を知る。

参加者は、マイクロクレジット、出産や育児、女性の健康（病気への対処法）、女性の生業活動、フェアトレード、学校教育などの希望テーマを決めておき、それに沿って現地での見学先、内容を組み立てる。
6. 募集期間：5月18日（月）～6月15日（月）16時30分まで
 受付は月曜日から木曜日の9時30分～16時30分。13時台はお昼休憩のために不在のことが多い。
 金曜日は閉室。
7. 参加費用：約4万円（飛行機代は大学負担） ※現地での買い物などは自己負担。
 - ◇ 上記参加費用に含まれるもの：

村での宿泊費と食費（1泊3食で約2千円）、ダッカでのホテル代（1泊5～6千円で2～3泊）、海外旅行保険代（約9,000円）
 - ◇ 上記研修費用に含まれないもの（その一部を例示）：

超過手荷物運搬料金、飲食費など個人的な費用、自宅から関空往復の交通費、パスポート取得費用、ビザ取得のための写真代など

最近の円安によって、自己負担が増える可能性有り。
8. 募集人数：4名 応募者多数の場合は選考します。
 （参考）6月4日（木）の説明会参加者は25名でした。
9. スケジュール（今後変更することがあります。）

6月4日（水）16：30～ 済	募集説明会 E218-1
5月18日（月）～6月15日（月）	金曜以外の平日 10：00～16：30 9：30～13:00、14：00～16：30 の間にアジア・ジェンダー文化科学研究センターへ書類提出
6月25日（木）	募集結果を応募者に通知 パスポートを取得する必要がある場合は、申請してください。

7月16日(木)	渡航説明会、保険説明 16:30～ N203 パスポート原本の提出 「同意書」「旅行伺い書」提出締め切り 17:00 ※16日説明会に参加できない人は、事前にパスポート原本をアジア・ジェンダー文化学研究センターへ提出すること。	
8月はじめ	ビザ取得のための手続き	
9月	最終説明会 (必要であれば)	
現地での予定		
9月7日(月)	関西空港出発	ダッカ泊
9月8日(火)	GUPダッカ事務所での説明、ダッカ市内の見学	ダッカ泊
9月9日(水)	ラジョール村への移動	ラジョール泊
9月10日(木)	ラジョール村、カリア村の見学、話を聞く	ラジョール泊
9月11日(金)	ラジョール村、カリア村の見学、話を聞く	ラジョール泊
9月12日(土)	ラジョール村、カリア村の見学、話を聞く	カリア泊
9月13日(日)	ダッカに移動	ダッカ泊
9月14日(月)	ダッカ出発	
9月15日(火)	関西空港着	
10月上旬	研修レポート提出期限(メール添付でセンター宛)	
10月下旬	帰国報告会 16:30～	

(参加者の希望や現地の状況に応じて、予定を変更することがあります。また、飛行機の時間によって、ダッカの宿泊日数が変わります。)

10. 主催：奈良女子大学 アジア・ジェンダー文化学研究センター
協力：Gono Unnayan Prochesta (GUP)
11. 引率者：本学教員が往復路とも同行し、現地に滞在します。
12. 利用予定航空会社：未定
13. 海外旅行傷害保険：必ず加入すること。※渡航説明会にて説明予定
14. 学生教育研究災害障害保険(学研災)および学研災付帯賠償責任保険(学研賠)：
必ず加入しておくこと。詳しくは学生生活課へ。
15. 問い合わせ先：
アジア・ジェンダー文化学研究センター Z202 (コラボレーション棟2階)
電話：0742-20-3611 E-mail: a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp
月～木曜日 9:30～16:30 (金曜は閉室)

詳しいことについては、生活環境学部生活文化学科 松岡悦子先生(内線 3487、matsuoka-e@cc.nara-wu.ac.jp) に問い合わせてください。

16. 6月4日の説明会の内容（6月8日に追記分）

- ① センター長の松岡先生から、本概要に沿って説明があった。
- ② 今回の研修先に滞在経験のある方（立命館大学の学生）から体験談を聞いた。
（報告内容は別紙を参考のこと）。
- ③ 質疑応答

「③ 質疑応答」（Qは参加者より。Aはバングラデシュ滞在経験者より）

Q. バングラデシュの治安について。

A. 特に悪いという印象はなかった。ただし、ホルタルという政治運動がたびたび行われているので、そこへは近づかないようにする。ホルタルの実施日時は事前に政府より発表があるので、政府情報には気をつけること。

Q. 現地の人の外国人への対応はどうか。

A. ホスピタリティ（おもてなし）精神が高いと思った。もともと外国人が少ない国で、地方へ行くと、外国人をはじめ「見る」という人も少なくない。なので、じっと見つめられることが多く、気がついたら現地の人に囲まれていた、ということもあった。それは単に外国人に対する好奇心の現れである。

Q. 9月頃の現地の気候について。

A. 日中はとにかく暑い。35-40度くらいか。朝晩は冷えるので、上着を持って行くと良い。

Q. 現地での服装について

A. イスラム文化圏なので、肌が露出しないう格好をする。自分は、身体のラインが見えない長袖のシャツに長ズボンで過ごした。

（松岡先生より）バングラデシュに到着後に、首都ダッカで民族衣装を購入することもオススメ。

Q. 日本から持って行っておくと良いもの

A. 蚊が多いので虫よけスプレーはあると良い。

（松岡先生より）話しを聞かせてもらった謝礼品として、ホテルに置いてあるような小さい石鹸が喜ばれる。蚊取り線香もあるとよい。

Q. 滞在先について

A. NGOの宿泊施設は、1部屋にベッドが2つある。空調が完備されている部屋とない部屋がある。食堂は近くにある。シャワーはあるが夏場は水のみを使っていた。トイレは水洗式だが、日本のようにきれいではない。

（松岡先生より）トイレットペーパーはついてはいるけれども、使いすぎると詰まるかもしれないので、どうしても使わざるを得ないとき以外は、できるだけ現地式に水でおしりを洗うほうが安心。宿泊場所は、ラジョールとカリアの2箇所あり、ラジョールの方には太陽光発電による温水が出るところがあるけれど、その温水を全員がシャワーに使えるかどうかはわからない

Q. 換金について

A. クレジットカードに付いている海外キャッシング機能（？）が便利（※デビットカードのようなものと言っていた）。ATM で現地の通貨を引き出すことができるために換金の必要がなく、余分な現金を持たずに済むため。

（松岡先生より）円をもって行って空港で換えるのがよい。でも何かのときにドルがあると、街中でも換金できるので、少しドルを持っていると安心できる。街中の換金所では、ドルの率は空港よりいいが、円については空港より率がよくなかった。今回は団体での行動になるので、空港で一斉に換える事を勧める。

そのほか、農村部での就学状況や女性の就業状況等についての質問も出た。